

第3章 地域交通の現状

1 公共交通の概況

(1) 全体概況

管内の交通の結節点を繋ぐ形で、路線バス・鉄道・フェリー・航空機が運行されており、地域住民の日常生活と観光客の周遊に不可欠となっている。

<路線バス(都市間バス、快速バス)>

運行事業者名	路線名	運行本数 (上下計)	備 考
北海道中央バス(株)、 道南バス(株)、北都交 通(株)、函館バス(株)	高速はこだて号 (札幌駅前ターミナルー湯の川温泉東)	16本	高速バス
北海道バス(株)	函館特急ニュースター号 (市電すすきの前ー上湯川)	16本	
函館バス(株)	快速瀬棚号 (函館バスセンター上三本杉)	21本	快速バス

<路線バス(管内路線)>

運行事業者名	運行エリア	備 考
函館バス(株)	函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、今金町、せたな町 (101系統)	
北海道バス(株)	函館市 (1系統)	
函館タクシー(株) 函館帝産バス	函館市・北斗市 (4系統)	
(有)大沼交通	函館市・北斗市・七飯町 (2系統)	

<コミュニティバス等(上記以外の乗合バス等)>

運行事業者名	運行エリア	備 考
(株)新星ハイヤー	函館市・北斗市 (1系統)、北斗市 (3系統)	
(株)桔梗ハイヤー	函館市・七飯町 (1系統)	
(有)山崎ハイヤー	福島町 (1系統)	
(有)八雲ハイヤー	八雲町 (1系統)	
(有)桧山ハイヤー	江差町 (1系統)	
(有)おとべハイヤー	乙部町 (2系統)	
(有)青苗ハイヤー	奥尻町 (1系統)	
(有)東ハイヤー	今金町 (5系統)、せたな町 (3系統)	
知内町	知内町 (2系統)	交通空白地有償運送
鹿部町	鹿部町 (2系統)	交通空白地有償運送

運行事業者名	運行エリア	備 考
八雲町	八雲町 (2 系統)	交通空白地有償運送
奥尻町	奥尻町 (3 系統)	交通空白地有償運送

<鉄道>

運行事業者名	路線名	運行本数 (上下計)	備 考
北海道旅客鉄道(株) 【JR 北海道】	北海道新幹線 (新青森駅－新函館北斗駅)	26 本 (16 本)	新函館北斗駅発着本数 ()は木古内駅発着本数
	函館本線(函館駅－旭川駅)	81 本	函館駅発着本数
	室蘭本線(長万部駅－苫小牧駅)	9 本	長万部駅発着本数
道南いさりび鉄道(株)	道南いさりび鉄道線 (五稜郭駅－木古内駅)	36 本	

<軌道>

運行事業者名	運行系統名	運行本数 (上下計)	備 考
函館市	2 系統(湯の川線－大森線－本線－ 宝来・谷地頭線)	133 本	
	5 系統(湯の川線－大森線－本線)	134 本	

<タクシー>

区域名	営業区域	事業者数 車両数	備 考
函館交通圏	函館市(旧南茅部町を除く)、北斗市、七飯町	法人 18 社 698 台 個人 72 者 72 台	
松前圏	松前町、福島町、知内町、木古内町	法人 3 社 8 台	
檜山圏	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、 八雲町(旧熊石町のみ)、今金町、せたな町	法人 5 社 36 台	
森圏	函館市(旧南茅部町のみ)、鹿部町、森町	法人 2 社 21 台	
八雲圏	八雲町(旧八雲町のみ)、長万部町	法人 3 社 17 台	
奥尻島	奥尻町	法人 1 社 4 台	

<旅客航路(道外航路)>

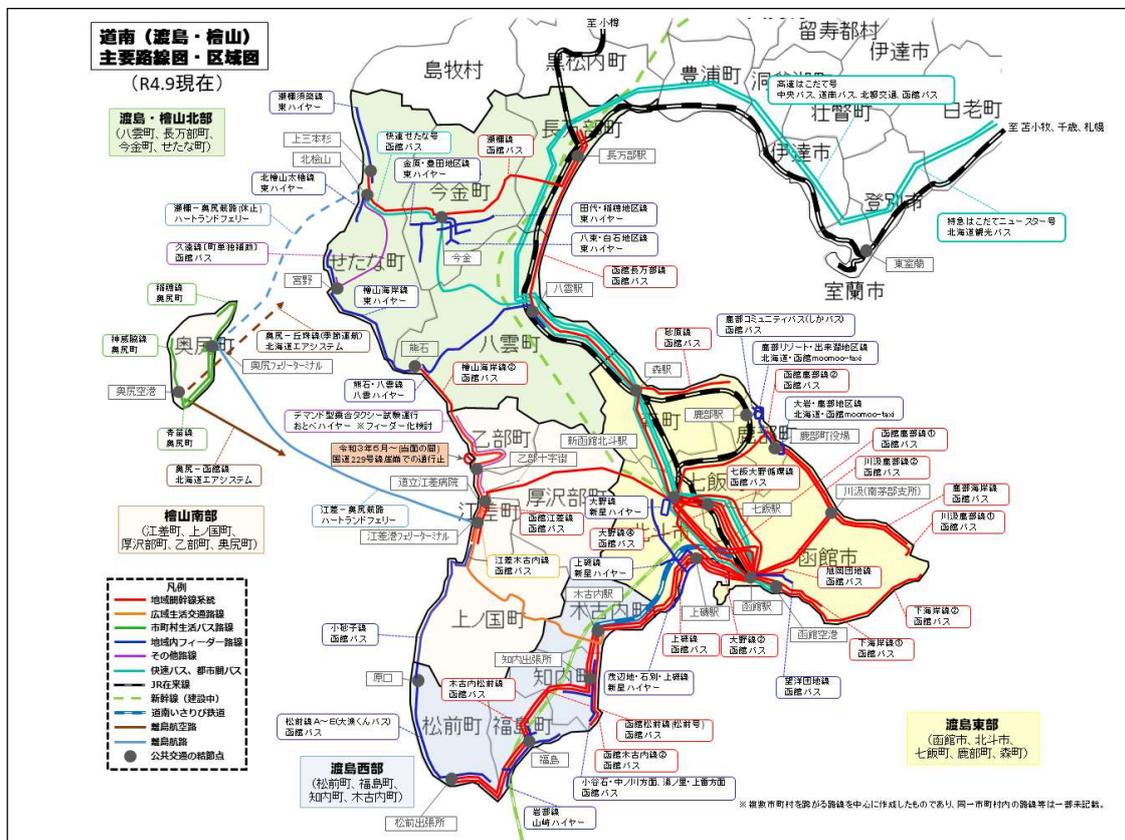
運航事業者名	路線名	運航本数 (上下計)	備 考
津軽海峡フェリー(株)	函館－青森	16 本	
	函館－大間	4 本	
青函フェリー(株)	函館－青森	16 本	

<旅客航路(離島航路)>

運航事業者名	路線名	運航本数(上下計)	備考
ハートランドフェリー(株)	奥尻-江差	4本	9月~翌年5月(ゴールデンウィークを除く)は2本
	奥尻-瀬棚	-	休止中

<航空>

航空会社名	路線名	運航本数(上下計)	備考
日本航空(株) 【JAL】	函館-札幌(丘珠)	12本	
	函館-奥尻	2本	月~木・土曜
	奥尻-丘珠	2本	金・日曜
	函館-東京(羽田)	6本	
	函館-大阪(伊丹)	2本	
全日本空輸(株) 【ANA】	函館-札幌(新千歳)	4本	
	函館-東京(羽田)	10本	うち4本はADO共同運航便
	函館-名古屋(中部)	2本	ADO共同運航便
	函館-大阪(伊丹)	2本	
株AIRDO 【ADO】	函館-東京(羽田)	4本	ANA共同運航便
	函館-名古屋(中部)	2本	ANA共同運航便



(2) 路線バス（広域路線）

地域の暮らしを支える重要な公共交通機関である乗合バスについて、渡島管内の広域路線としては、次のとおり運行されている。（※バス運行経費補助の区分）

- 地域間幹線系統
 - ・ 中心市町村と周辺市町村を結ぶ路線：20系統（※檜山管内町を含む路線を除く）
 - ・ 上記のうち、市町村合併により同一市町村内の路線：4系統
- 広域生活交通路線
 - ・ 生活交通として必要とする複数市町村を結ぶ路線：無（※檜山管内町を含む路線を除く）
 - ・ 同一市町村路線：7系統

人口減少やモータリゼーションの進展などの影響により、利用者が減少しており、採算面で課題が生じている状況。補助事業の対象要件を満たすための輸送量についても未達が発生することが懸念されているところ。

※バス運行経費に関する補助<広域路線関係>

○地域間幹線系統確保維持事業費補助金（国と道による協調的補助）

広域行政圏の中心市町村（または道が指定し国が承認した準中心市町村）とその周辺の市町村間を結ぶ系統を対象。

○広域生活交通路線維持費補助金（道と市町村による協調的補助）

地域間幹線系統としての要件を満たさないが、複数市町村を結ぶ系統や一定の条件下での同一市町村内の系統を対象。

ア 広域バス路線の概要（令和3年度実績）

○地域間幹線系統

- ・ 中心都市と周辺市町村を結ぶ路線（同一市町村内の路線を除く） 16系統

区分		概要
1	地域間幹線系統	大野線② （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 函館バスター(以下「函館BC」)～五稜郭～新函館北斗駅 (25.0km) 【運行回数】 3.9便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.4人・13.2人 【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭～宮前町、市立函館病院～七重浜、総合分庁舎前、新函館北斗駅
		【路線の維持目的】 ・ 函館市(五稜郭)、北斗市(大野)住民の通勤、通学及び市立函館病院等への通院利用
2	地域間幹線系統	大野線④ （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 函館BC～亀田支所前～新函館北斗駅 (24.4km) 【運行回数】 6.1便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.2人・31.7人 【利用が多い区間】 函館駅前～五稜郭、亀田支所前～昭和、西桔梗～追分、総合分庁舎前

区分		概要
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市(五稜郭・美原)、北斗市(大野)住民の通勤、通学及び新都市病院等への通院利用
3	地域間 幹線 系統	<p>大川富岡線 (運行事業者：函館バス)</p>
		<p>【運行区間(キロ程)】 函館 BC～医師会病院前・七飯駅入り口～新函館北斗駅 (27.2km)</p> <p>【運行回数】 9.8 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.3 人・51.9 人</p> <p>【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭～亀田支所前～附属中学校前</p>
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市、七飯町住民の通勤、通学及び通院の利用。函館(五稜郭・美原)と七飯町住宅街を結ぶ路線
4	地域間 幹線 系統	<p>七飯大野循環線 (運行事業者：函館バス)</p>
		<p>【運行区間(キロ程)】 函館 BC～七飯大野循環～函館 BC (43.0km)</p> <p>【運行回数】 7.5 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.4 人・33.0 人</p> <p>【利用が多い区間】 函館駅前、市立函館病院～追分、総合分庁舎前、七飯高校前～桔梗</p>
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北斗市(大野)七飯町住民間の通勤、通学、市立函館病院などへの通院利用。大野市街地と七飯市街地を直通で結ぶ路線
5	地域間 幹線 系統	<p>七飯富岡線 33 系統① (運行事業者：函館バス)</p>
		<p>【運行区間(キロ程)】 函館 BC～五稜郭・七飯役場通～新函館北斗駅 (26.7km)</p> <p>【運行回数】 9.6 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 8.0 人・76.8 人</p> <p>【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭、亀田支所前～桔梗、鳴川</p>
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市、七飯町住民の通勤、通学及び通院の利用。函館(五稜郭・美原)と七飯町中心市街地を結ぶ路線
6	地域間 幹線 系統	<p>函館鹿部線① (運行事業者：函館バス)</p>
		<p>【運行区間(キロ程)】 函館 BC～七飯～新函館北斗駅 (24.3km)</p> <p>【運行回数】 4.4 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.5 人・15.4 人</p> <p>【利用が多い区間】 西高校前、函館駅前、南昭和～桔梗、鳴川</p>
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市、七飯町(藤城)住民の通勤、通学及び通院利用
7	地域間 幹線 系統	<p>旭岡団地線 (運行事業者：函館バス)</p>
		<p>【運行区間(キロ程)】 昭和ターミナル～東港～旭岡中学校 (21.6km)</p> <p>【運行回数】 8.6 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.9 人・50.7 人</p> <p>【利用が多い区間】 西桔梗～市立函館病院、五稜郭、函館アリーナ前～湯倉神社前、湯川団地、旭岡小学校前～旭岡中学校前</p>
		<p>【路線の維持目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市(旭岡、湯の川)住民の五稜郭方面までの通勤、通学及び市立函館病院などへの通院利用

区分		概要
8	地域間 幹線 系統	上磯日吉線 16A 系統 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 日吉営業所前～市立函館前・北斗市役所通～富川会館前 (21.5km) 【運行回数】 5.1 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.3 人・27.0 人 【利用が多い区間】 国立病院前～五稜郭、市立函館病院、七重浜～北斗市役所通
		【路線の維持目的】 ・函館市、北斗市住民の通勤、通学及び通院利用。函館市(五稜郭・花園町)と北斗市市街地を結ぶ路線
9	地域間 幹線 系統	上磯線 19 系統 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～五稜郭・北斗市役所通～富川会館前 (20.3km) 【運行回数】 8.6 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.6 人・48.1 人 【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭、亀田支所前～西桔梗、慰霊碑前～北斗市役所通
		【路線の維持目的】 ・函館市、北斗市住民の通勤、通学及び通院利用。函館市(五稜郭・美原)と北斗市市街地を結ぶ路線
10	地域間 幹線 系統	函館鹿部線② (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～七飯～鹿部出張所 (57.0km) 【運行回数】 3.0 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.2 人・12.6 人 【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭駅前、昭和、桔梗、蒜沢、鳴川
		【路線の維持目的】 ・鹿部町、七飯町住民の函館市までの沿線各病院への通院利用。 ・鹿部町から新函館北斗駅までの交通確保、七飯町大沼地区の交通確保
11	地域間 幹線 系統	川汲鹿部線② (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～川汲～鹿部出張所 (55.7km) 【運行回数】 3.0 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.9 人・11.7 人 【利用が多い区間】 五稜郭、湯倉神社前、鱒川入口、南茅部支所前
		【路線の維持目的】 ・鹿部町住民の函館市方面までの通勤、通学及び通院利用
12	地域間 幹線 系統	鹿部海岸線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 鹿部出張所～川汲～古部 (36.8km) 【運行回数】 3.5 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.3 人・11.5 人 【利用が多い区間】 南茅部支所前、尾札部
		【路線の維持目的】 ・古部・尾札部住民の鹿部町方面までの通学利用及び鹿部町、椴法華・古部住民の南茅部支所での函館方面の接続便 ・古部方面から南茅部高校までの通学利用

区分		概要
13	地域間 幹線 系統	函館木古内線② （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～函館病院・五稜郭～小谷石（65.5km） 【運行回数】 2.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.1 人・14.7 人 【利用が多い区間】 五稜郭、市立函館病院前、慰霊碑前、久根別小学校前、木古内駅前
		【路線の維持目的】 ・ 知内町、木古内町住民の函館方面への通院利用等。函館方面から知内町小谷石までの路線
14	地域間 幹線 系統	函館松前線(松前号) （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 松前出張所～知内出張所～函館 BC（106.0km） 【運行回数】 2.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 6.0 人・17.4 人 【利用が多い区間】 五稜郭、亀田支所前、昭和ターミナル、西桔梗、慰霊碑前、福島商業高校前
		【路線の維持目的】 ・ 渡島西部 4 町住民の函館方面への通院や買い物利用等
15	地域間 幹線 系統	木古内松前線 （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 松前出張所～東萊～木古内駅前（59.8km） 【運行回数】 6.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 2.7 人・18.6 人 【利用が多い区間】 松城、福島商業高校前、知内高校前、町民センター前、木古内駅前
		【路線の維持目的】 ・ 渡島西部 4 町住民の通学及び通院利用のほか、木古内駅前からいさりび鉄道への接続便
16	地域間 幹線 系統	函館長万部線 （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～森・八雲～長万部ターミナル（112.4km） 【運行回数】 3.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 6.0 人・23.4 人 【利用が多い区間】 函館駅前、五稜郭駅前、南昭和、長万川、森駅前、蛭谷、八雲総合病院、国縫、東京理科大学入口
		【路線の維持目的】 ・ 各市町間の沿線各病院への通院利用

○地域間幹線系統

- ・ 中心都市と周辺市町を結ぶ路線（市町村合併により同一市町村内の路線） 4 系統

区分		概要
1	地域間 幹線 系統	川汲鹿部線① （運行事業者：函館バス）
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～川汲～榎法華支所前（54.1km） 【運行回数】 2.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.2 人・12.1 人
		【路線の維持目的】 ・ 函館市（榎法華）住民の市街地までの通勤、通学及び通院利用

区分		概要
2	地域間 幹線 系統	下海岸線① (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～谷地町～釜谷 (23.2km) 【運行回数】 3.4 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.3 人・14.6 人
		【路線の維持目的】 ・ 函館市 (戸井、恵山) 住民の市街地までの通勤、通学及び通院利用
3	地域間 幹線 系統	下海岸線② (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～五稜郭～恵山御崎 (53.6km) 【運行回数】 7.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.9 人・30.8 人
		【路線の維持目的】 ・ 函館市 (戸井、恵山) 住民の市街地までの通勤、通学及び通院利用
4	地域間 幹線 系統	砂原線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 森駅前～砂原支所前～砂原東3丁目 (19.6km) 【運行回数】 3.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.0 人・11.7 人
		【路線の維持目的】 ・ 森町 (砂原) 住民の森駅方面までの通勤、通学及び通院利用

○ 広域生活交通路線

- ・ 同一市町村路線：7 系統

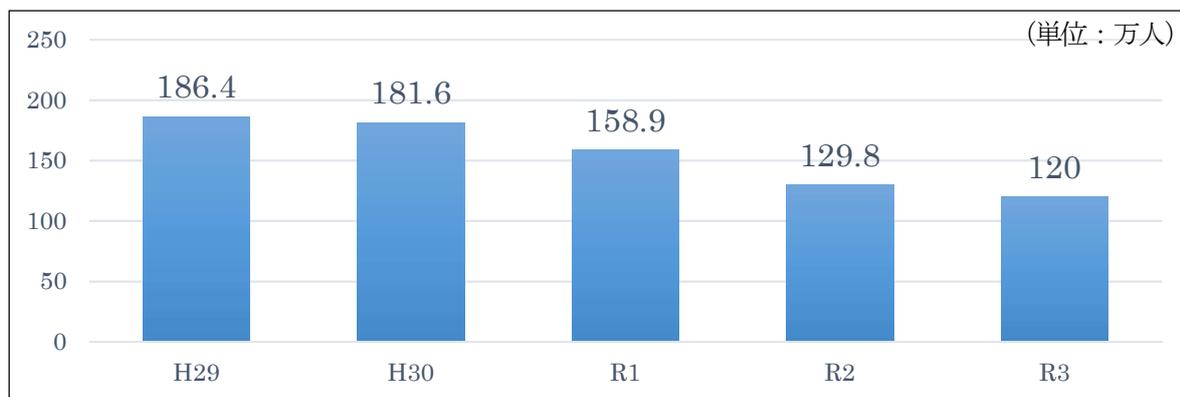
区分		概要
1	広域生活 交通路線	旭岡団地線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 昭和T～石川、鍛冶～旭岡中学校 (22.0km) 【運行回数】 2.0 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.1 人・10.2 人
		【路線の維持目的】 ・ 旭岡地区ほか沿線住民の通勤、通学及び各病院への通院利用
2	広域生活 交通路線	中の橋線② (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 東山見晴台団地～中の橋～市役所前 (12.1km) 【運行回数】 2.5 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.5 人・11.2 人
		【路線の維持目的】 ・ 臨空工業団地等への通勤利用の他、高校生の通学利用
3	広域生活 交通路線	昭和船見線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 昭和営業所～市立函館病院～船見町 (13.5km) 【運行回数】 5.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.5 人・26.5 人
		【路線の維持目的】 ・ 通勤、通学利用の他、市立函館病院等への通院利用、市役所等公共施設への利用

区分		概要
4	広域生活 交通路線	昭和船見線② (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 昭和営業所～五稜郭駅前～船見町 (10.8km) 【運行回数】 10.4 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 3.9 人・40.5 人
		【路線の維持目的】 ・通勤、通学利用の他、共愛会病院等への通院利用、公共施設への利用
5	広域生活 交通路線	美原谷地頭線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 谷地頭温泉～中の橋～桔梗町 418 (14.3km) 【運行回数】 6.6 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 5.5 人・36.3 人
		【路線の維持目的】 ・通勤、通学利用の他、医師会病院等への通院利用、市役所等公共施設への利用
6	広域生活 交通路線	農住団地線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館 BC～農住団地～東山ニュータウン (13.0km) 【運行回数】 4.9 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 2.5 人・12.2 人
		【路線の維持目的】 ・通勤利用の他、中央病院等への通院利用、公共施設への利用
7	広域生活 交通路線	見晴線 (運行事業者：函館バス)
		【運行区間(キロ程)】 函館駅前～花園町～滝沢町巡回場 (13.3km) 【運行回数】 12.8 便/日 【平均乗車密度・輸送量】 4.7 人・60.1 人
		【路線の維持目的】 ・通勤、通学利用の他、五稜郭病院等への通院利用

イ 路線の輸送人員

年間輸送人員は、平成 29 年度には約 186 万人であったが、令和 3 年度には約 120 万人まで減少している。

広域路線の年間輸送人員の推移

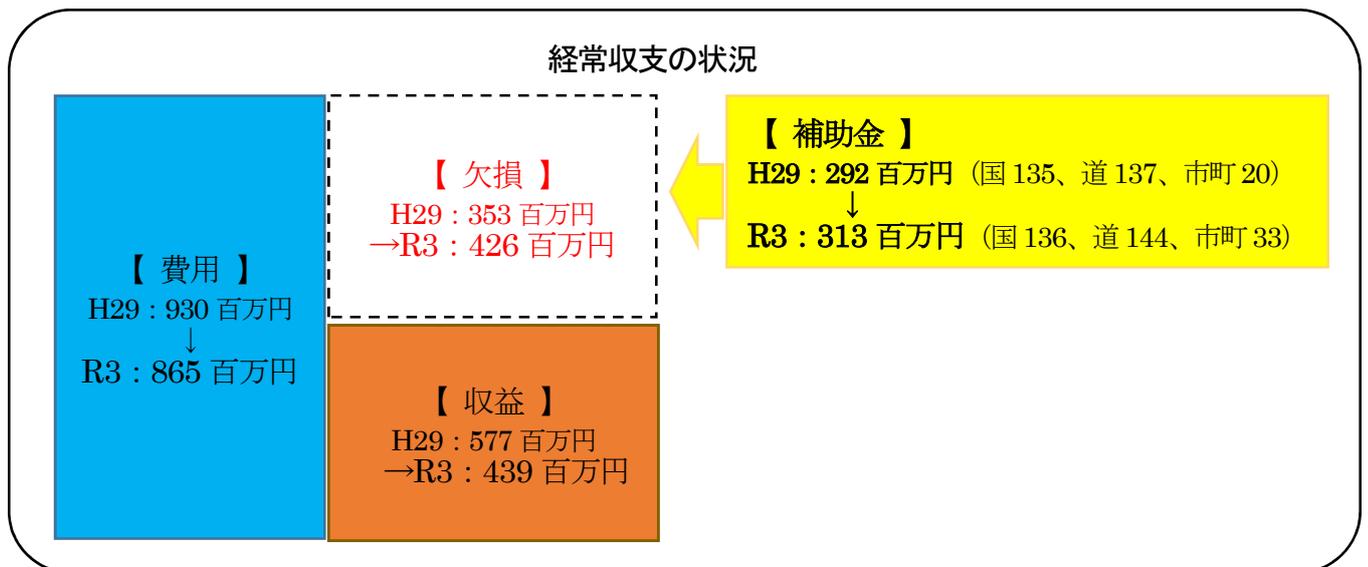


【出典】函館バス(株)資料

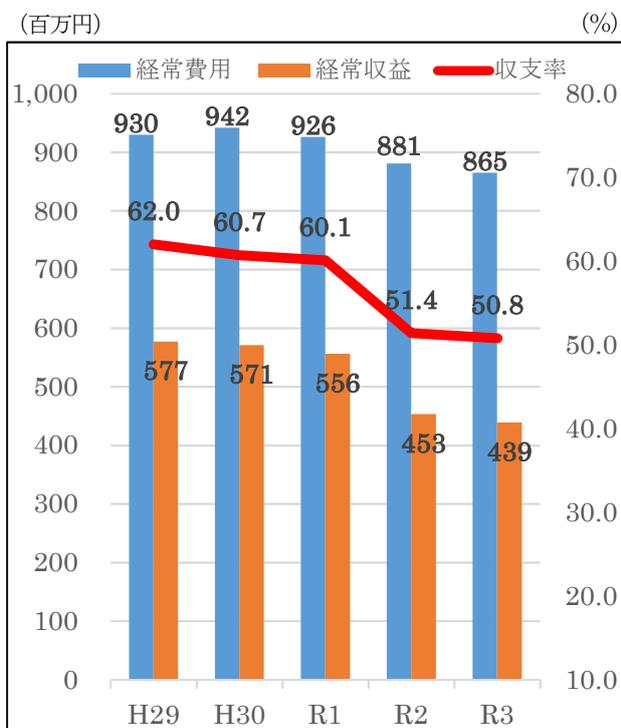
ウ 路線収支と行政支援額

運行に必要な経常費用（人件費、燃料油脂費など）が、令和3年度には約8.6億円に対して、経常収入（運賃収入、広告収入など）は約4.4億円になっているなど、費用の減少より収益の減少が大きく、収支率は低下しており、欠損額が増加している。

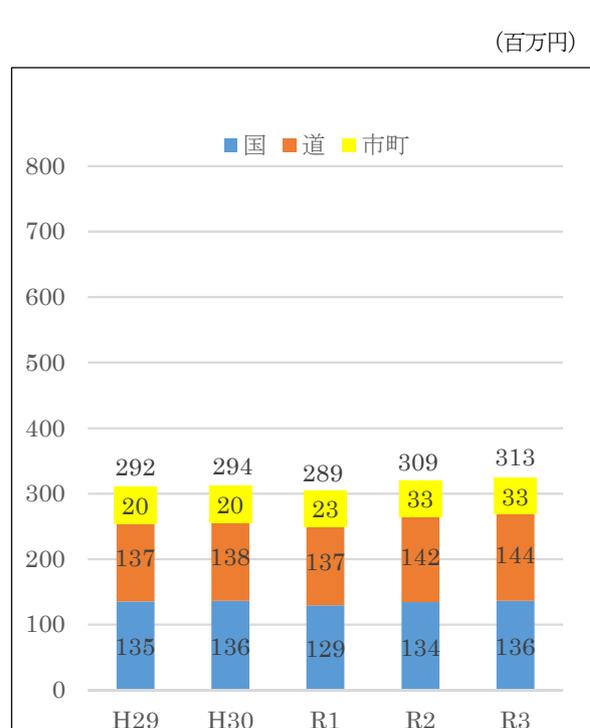
路線を維持するため、この欠損に対し、国・道・市町が交通事業者へ補助金を交付しているが、補助金額は平成29年度の約2.9億円から、令和3年度の約3.1億円に増加している。



広域路線の経常収支の推移



広域路線に対する補助金の推移



【出典】 函館バス(株)資料

エ 停留所別乗降状況調査

交通需要を把握し、地域住民の利便性を向上させるための効率的なバス路線の構築に繋げるため、渡島管内における複数市町に跨がる次の広域バス路線（全16路線）路線ごとの乗降状況を調査した。

<調査方法及び調査期間>

対象路線の停留所ごとの乗降データ（函館バス株式会社提供）から、平日（金曜日）、休日（日曜日）の各路線、停留所ごとに午前、午後の乗降状況について調査した。

<広域バス路線（全16路線）>

圏域	路線名	関係市町	備考
渡島東部圏	大野線②	函館市、北斗市	・函館市内と近隣市町（北斗市、七飯町、鹿部町）を連絡する路線
	大野線④	函館市、北斗市	
	大川富岡線	函館市、北斗市、七飯町	
	七飯大野循環線	函館市、北斗市、七飯町	
	七飯富岡線33系統①	函館市、北斗市、七飯町	
	函館鹿部降線①	函館市、北斗市、七飯町	
	旭岡団地線	函館市、北斗市	
	上磯日吉線16A系統	函館市、北斗市	
	上磯線19系統	函館市、北斗市	
	函館鹿部降線②	函館市、北斗市、七飯町、鹿部町	
	川汲鹿部降線②	函館市、鹿部町	
渡島西部圏	鹿部海岸線	函館市、鹿部町	・南茅部地区（函館市）と鹿部町を連絡する路線
	函館木古内線② 函館松前線	函館市、北斗市、木古内町、知内町 函館市、北斗市、木古内町、知内町、福島町、松前町	・函館市と北斗市、渡島西部（木古内町、知内町、福島町、松前町）を連絡する路線
渡島北部圏	木古内松前線	木古内町、知内町、福島町、松前町	・木古内町から松前町までを連絡する路線
渡島北部圏	函館長万部降線	函館市、七飯町、森町、八雲町、長万部町	・函館市と七飯町、森町、渡島北部（八雲町、長万部町）を連絡する路線

<調査結果>

各路線の調査結果については、「参考3 停留所別乗降状況調査結果（P87～）」のとおり。

(3) 鉄道・軌道

道南地域における鉄道・軌道は、路線バスとともに、公共交通の骨格を形成しており、地域住民や観光客の足として、主要な移動手段となっている。

鉄道は、北海道旅客鉄道(株)(JR北海道)が運行する北海道新幹線や函館本線、第三セクターの道南いさりび鉄道(株)が運行する路線があり、軌道は、函館市が運行する市内路線がある。

ア 鉄道

2016年(平成26年)3月に開業した北海道新幹線〔新青森駅―新函館北斗駅〕と在来線の函館本線〔函館駅―旭川駅〕が運行しているほか、北海道新幹線開業時に北海道旅客鉄道(株)から経営分離された旧江差線の一部〔五稜郭駅―木古内駅〕は、道・沿線市町・民間が出資・設立した道南いさりび鉄道(株)が運行しており、地域住民や観光客の足として利用されている。

JR主要駅間の最短の所要時間は、東京駅から函館駅が4時間45分、札幌駅から函館駅が3時間56分で結ばれており、路線バスやデマンド型交通などにより、檜山地方の各地へも地域住民や観光客などを運ぶなど渡島地方の主要各駅は公共交通の結節点として機能しており、鉄道と路線バスなどとの連携強化により生活に必要な移動はもとより、観光客の周遊促進も見込まれる。

なお、鉄道の利用促進に向けては、北海道鉄道活性化協議会、道南いさりび鉄道沿線地域協議会、北海道新幹線建設促進期成会、新幹線木古内駅活用推進協議会などが活動を行っている。

線名	区間	営業キロ	輸送密度(人/ｷﾛ/日)				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
北海道新幹線	新青森駅―新函館北斗駅	148.3	4,510	4,899	4,645	1,453	1,635
函館本線	函館駅―長万部駅	147.6	3,712	3,650	3,397	1,443	1,636
	長万部駅―小樽駅	140.2	652	625	618	349	340
道南いさりび鉄道線	函館駅―木古内駅	41.2	531	512	479	417	421

※輸送密度：旅客営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員

【出典】北海道旅客鉄道(株)、道南いさりび鉄道(株)

JR主要駅（新幹線・特急停車駅）間の所要時間（※）及び公共交通との結節

		出発駅			主な公共交通との結節 () 内は主な路線
		東京駅	札幌駅	函館駅	
到着駅	函館駅	4時間 45分	3時間 56分	—	路線バス（市内（空港バス含む）、渡島・檜山地方の各方面、札幌行）
	五稜郭駅	4時間 40分	3時間 51分	4分	道南いさりび鉄道線（木古内駅行）
					路線バス（市内、札幌行）
	新函館北斗駅	4時間 10分	3時間 40分	22分	路線バス（函館市、江差町、札幌行）
	木古内駅	3時間 57分	4時間 23分	1時間 1分	道南いさりび鉄道線（五稜郭駅行）
					路線バス（函館市、松前町行）
	森駅	5時間 5分	3時間 7分	46分	路線バス（町内、函館市、長万部町行）
八雲駅	5時間 26分	2時間 47分	1時間 7分	路線バス（町内、函館市、長万部町行）	
				デマンドバス（町内行）	
長万部駅	5時間 47分	2時間 25分	1時間 28分	路線バス（せたな町、函館市、札幌行）	

※令和4年1月現在、正午(12時)に出発する場合の最短の時間（乗換時間を含む）

【出典】北海道旅客鉄道(株)

イ 軌道

函館市内には軌道が、観光地の西部地区から谷地頭温泉や湯の川温泉に向かって2系統運行しており、地域住民や観光客の足として利用されている。

軌道の年間輸送人員

市町名	区 間	営業 キロ	輸送人員（千人）				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
函館市	谷地頭－湯の川	10.9	5,747	5,439	5,446	3,338	3,475
	函館どっく前－湯の川						

【出典】北海道運輸局函館運輸支局

(4) 北海道新幹線

平成26年3月に開業した北海道新幹線（新青森駅—新函館北斗駅）は、世界で最も長い海底トンネルである青函トンネルで本州とつながっており、航路などほかの公共交通より運休が少なく、安定的に運行されている。

道南地域には、木古内駅と新函館北斗駅の2つの新幹線駅があり、開業以降、道南地域と東北地方との交流が増加するなど開業効果が出ているところ。

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は大幅に減少している状況にあるが、令和3年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」など、今後、観光客による利用の増加が見込まれる。さらに令和12年度の札幌開業が実現すれば、利用客が一段と増加することが見込まれている。

また、札幌開業と同時に、八雲町及び長万部町に新幹線の新駅も開業することとなり、管内公共交通と新幹線の結節がより強まることとなる。

北海道新幹線の利用状況

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
一日平均利用者数	約6,200人	約5,000人	約4,600人	約4,500人	約1,500人	約1,800人
乗車率	32%	26%	24%	23%	8%	10%

【出典】北海道旅客鉄道(株)



(5) タクシー

道南地域においては、6つの営業区域があり、人口減少等に伴い、年間輸送人員はどちらの区域でも減少傾向にある。

タクシーは、その利用により希望の時間に希望の場所に移動することができ、ラストワンマイル対策などの多様な移動ニーズに対応できる公共交通として利用されてきているが、近年、路線バスの利用者の減少等により、乗合タクシーへの転換が行われる場合、新たな交通事業の運行主体として役割を担う場面が増えている。

道南地域におけるタクシーの営業区域

区域名	営業区域
函館交通圏	函館市（旧南茅部町を除く）、北斗市、七飯町
松前圏	木古内町、松前町、福島町、知内町、木古内町
檜山圏	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、八雲町（旧熊石町のみ）、今金町、せたな町
森圏	函館市（旧南茅部町のみ）、鹿部町、森町
八雲圏	八雲町（旧八雲町のみ）、長万部町
奥尻島	奥尻町

タクシーの年間輸送人員

	H29	H30	R1	R2	R3
函館交通圏	7,020,280	6,561,615	6,091,246	3,869,946	3,881,806
松前圏	54,205	47,904	39,037	33,036	33,115
檜山圏	128,000	129,610	116,601	77,373	81,338
森圏	158,229	148,060	128,694	106,664	99,477
八雲圏	206,900	190,863	169,792	140,904	134,321
奥尻島	1,505	1,262	1,194	646	572

【出典】北海道運輸局函館運輸支局

(6) 航路

道南地域では、函館港と道外を結ぶ旅客航路があり、地域住民や観光客の足としてのみでなく、鉄道貨物とともに、重要な物流手段としての役割を担っている。

ア 道外航路

函館港から青森港と大間港への航路が運航されており、函館への通院など生活に必要な移動のほか、観光客の移動手段として利用されている。

道外航路の年間輸送人員

航路名	輸送人員(人)				
	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
函館－大間	114,476	112,274	116,085	51,854	56,705
函館－青森	634,380	632,491	638,641	366,653	412,471

【出典】北海道運輸局函館運輸支局

(7) 航空路

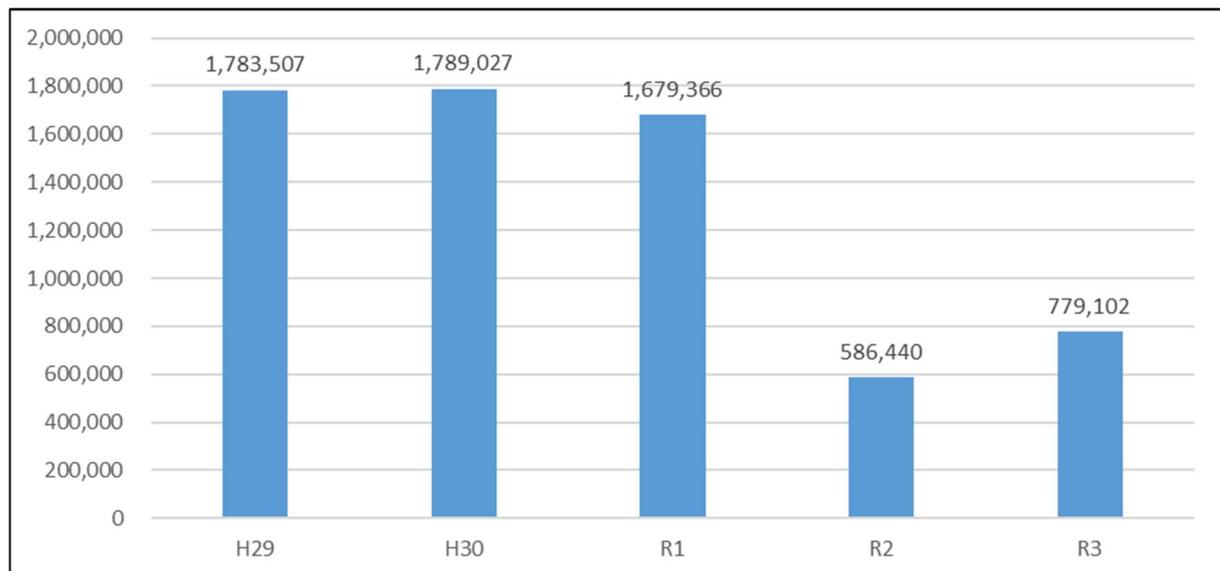
道南地域では、函館空港から道内外を結ぶ旅客運航があり、地域住民や観光客の足としてのみでなく、速達性のある物流手段としての役割を担っている。

ア 函館空港

函館空港と道内外の各空港を結ぶ航空路は、観光客の主要な移動手段として利用されているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間搭乗者数が減少している。

函館空港の年度別乗降客数

(人)



【出典】国土交通省「空港管理状況調書」

2 交通の結節点

「交通の結節点」は、路線バス同士などの乗継や、路線バスから北海道新幹線などの乗換の拠点であることから、公共交通の利用促進を図るうえで、重要な役割を担っている。

また、単に交通機関の乗換や乗継としての機能だけではなく、街のランドマークとしての機能も持ち合わせているため、その観点からも待合所などの整備（待合所に集会所の機能を付加）は必要な要素となっている。

市町における主な「公共交通の結節点」

凡例 BC：バスセンター、T：ターミナル、FT：フェリーターミナル

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名	
函館市	函館駅	北海道中央バス(株)・道南バス(株)・北都交通(株)・函館バス(株)	高速はこだて号(札幌駅前T⇔湯の川温泉東)	
		北海道バス(株)	函館特急ニュースター号(市電すすきの前⇔上湯川)	
		函館バス(株) ※接続する系統は地域間幹線系統を記載	上磯方面(10番系統)	上磯線19系統(函館BC⇔富川会館)
			大野方面(20番系統)	大野線②④(函館BC⇔新函館北斗駅)
				七飯大野循環線(函館BC⇔七飯大野循環)
				七飯方面(30番系統)
			七飯大野循環線(函館BC⇔七飯大野循環)	
			七飯富岡線33系統①(函館BC⇔新函館北斗駅)	
			函館鹿部線①(函館BC⇔新函館北斗駅)	
			亀田本町方面(40番系統)	
			赤川方面(50番系統)	
			鍛冶方面(60番系統)	
			花園方面(70番系統)	
			深堀方面など(80番系統)	
			根崎方面など(90番系統)	川汲鹿部線①(函館BC⇔榎法華支所)
				川汲鹿部線②(函館BC⇔鹿部出張所)
				鹿部方面(200番系統)
			森方面(300番系統)	

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名	
			知内方面 (400 番系統) 函館木古内線 (函館 BC⇔小谷石)	
			松前方面 (500 番系統) 函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)	
			江差方面 (600 番系統) 函館江差線 (函館 BC⇔江差 T)	
		北海道バス(株)	青函フェリー前⇔上湯川町	
		函館タクシー(株) 函館帝産バス	函館空港発着便(函館空港-函館駅前-ホテルWBF グランデ) フェリーターミナル発着便(フェリーターミナル-函館駅前)	
		北海道旅客鉄道(株)【JR】	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	
		道南いさりび鉄道(株)	函館本線 (函館駅⇔五稜郭駅) 乗入れ、道南いさりび 鉄道線 (五稜郭駅⇔木古内駅) 直通	
		函館市【軌道】	2 系統(湯の川線-大森線-本線-宝来・谷地頭線) 5 系統(湯の川線-大森線-本線)	
		五稜郭 (本町)	北海道中央バス(株)・ 道南バス(株)・北都交通 (株)・函館バス(株)	高速はこだて号 (札幌駅前T⇔湯の川温泉東)
			北海道バス(株)	函館特急ニュースター号 (市電すすきの前⇔上湯川)
			函館バス(株) ※地域間幹線系統のみ記載	上磯方面 (10 番系統) 旭岡団地線 (昭和⇔旭岡中学校) 上磯日吉線 16A 系統 (日吉営業所⇔富川会館) 上磯線 19 系統 (函館 BC⇔富川会館)
				大野方面 (20 番系統) 大野線②④ (函館 BC⇔新函館北斗駅)
			七飯方面 (30 番系統) 大川富岡線 (函館 BC⇔新函館北斗駅) 七飯富岡線 33 系統① (函館 BC⇔新函館北斗駅)	
			川汲・鹿部方面 (90 番系統) 川汲鹿部線① (函館 BC⇔楳法華支所) 川汲鹿部線② (函館 BC⇔鹿部出張所)	
			木古内・知内・福島・松前方面 (400 番・500 番系統) 函館木古内線 (函館 BC⇔小谷石) 函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)	
			江差方面 (600 番系統) 函館江差線 (函館 BC⇔江差 T)	
	函館市【軌道】		2 系統(湯の川線-大森線-本線-宝来・谷地頭線) 5 系統(湯の川線-大森線-本線)	

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名		
	亀田支所前	北海道中央バス(株)・道南バス(株)・北都交通(株)・函館バス(株)	高速はこだて号(札幌駅前T⇔湯の川温泉東)		
		函館バス(株) ※地域間幹線系統のみ記載	上磯方面(10番系統) 上磯線19系統(函館BC⇔富川会館)		
			大野方面(20番系統) 大野線④(函館BC⇔新函館北斗駅)		
			七飯方面(30番系統) 大川富岡線(函館BC⇔新函館北斗駅) 七飯富岡線33系統①(函館BC⇔新函館北斗駅)		
				松前方面(500番系統) 函館松前線(函館BC⇔松前出張所)	
			湯倉神社前	函館バス(株) ※地域間幹線系統のみ記載	旭岡団地線(昭和⇔旭岡中学校)
					川汲鹿部線①(函館BC⇔楸法華支所)
	川汲鹿部線②(函館BC⇔鹿部出張所)				
	函館バス(株)	望洋団地線(新湊高台・函館共働宿泊所⇔湯倉神社前)			
	北海道バス(株)	青函フェリー前⇔上湯川町			
	函館市【軌道】	2系統(湯の川線-大森線-本線-宝来・谷地頭線)			
		5系統(湯の川線-大森線-本線)			
	函館空港	函館バス(株)	空港循環線(函館空港⇔亀田支所・五稜郭⇔函館空港)		
			96系統(函館駅⇔函館空港)		
		函館タクシー(株) 函館帝産バス	函館空港発着便(函館空港-函館駅前-ホテルWBFグランド)		
			五稜郭公園入口発着便(五稜郭公園入口-函館空港)		
			新函館北斗駅発着便(函館空港-新函館北斗駅)		
		(有)大沼交通	函館空港⇔大沼公園駅前		
		日本航空(株)【JAL】	函館-札幌(丘珠)・東京(羽田)・大阪(伊丹) 函館-奥尻、奥尻-札幌(丘珠)		
		全日本空輸(株)【ANA】	函館-札幌(新千歳)・東京(羽田)・名古屋(中部)・大阪(伊丹)		
	株AIRDO【AIRDO】	函館-東京(羽田)・名古屋(中部)			
川汲(南茅部支所前)	函館バス(株)	川汲鹿部線①(函館BC⇔南茅部支所⇔楸法華支所)			
		川汲鹿部線②(函館BC⇔南茅部支所⇔鹿部出張所)			
		鹿部海岸線(鹿部出張所⇔古部)			
北斗市	上磯駅(上磯駅前通) ※地域間幹線系統のみ記載	上磯日吉線16A系統(日吉営業所⇔富川会館)			
		上磯線19系統(函館BC⇔富川会館)			
		函館木古内線②(函館BC⇔小谷石)			
		函館松前線(函館BC⇔松前出張所)			

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名
		道南いさりび鉄道(株)	道南いさりび鉄道線 (五稜郭駅⇔木古内駅)
		(株)新星ハイヤー	茂辺地・石別・上磯線 (駅⇔富川会館前⇔三ツ石) 上磯線 (駅前⇔北斗市役所⇔三好会館)
	新函館北斗 駅	北海道中央バス(株)・ 道南バス(株)・北都交通 (株)・函館バス(株)	高速はこだて号 (札幌駅前T⇔湯の川温泉東)
			北海道バス(株)
		函館バス(株) ※地域間幹線系統のみ記載	大野線②④ (函館 BC⇔新函館北斗駅)
			大川富岡線 (函館 BC⇔新函館北斗駅)
			七飯富岡線 33 系統① (函館 BC⇔新函館北斗駅)
			函館鹿部線① (函館 BC⇔新函館北斗駅)
			函館鹿部線② (函館 BC⇔鹿部出張所)
			函館江差線 (函館 BC⇔江差 T)
		函館タクシー(株) 函館帝産バス	新函館北斗駅発着便(函館空港-新函館北斗駅)
		(有)大沼交通	新函館北斗駅⇔大沼公園駅前
	北海道旅客鉄道(株)【JR】	北海道新幹線 (新青森駅⇔新函館北斗駅)	
		函館本線 (函館駅⇔旭川駅)	
		(株)新星ハイヤー	大野線 (新函館北斗駅⇔総合分庁舎)
松前町	松前出張所	函館バス(株)	函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)
			木古内松前線 (木古内駅前⇔松前出張所)
			大漁くんバス (原口⇔白神)
	原口バス停	函館バス(株)	小砂子線 (江差病院・江差高校⇔原口) 大漁くんバス (原口⇔白神)
福島町	福島バス停	函館バス(株)	函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)
			木古内松前線 (木古内駅前⇔松前出張所)
		(有)山崎ハイヤー	町デマンドバス岩部線 (千軒地区を除く町内全域)
知内町	知内出張所	函館バス(株)	函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)
			木古内松前線 (木古内駅前⇔松前出張所)
			函館木古内線② (函館 BC⇔小谷石)
			町デマンドバス (小谷石・中ノ川、上雷・湯ノ里)
木古内 町	木古内駅	函館バス(株)	江差木古内線 (木古内駅前⇔江差病院・江差高校)
			函館松前線 (函館 BC⇔松前出張所)
			木古内松前線 (木古内駅前⇔松前出張所)
			函館木古内線② (函館 BC⇔小谷石)
		北海道旅客鉄道(株)【JR】	北海道新幹線 (新青森駅⇔新函館北斗駅)
	道南いさりび鉄道(株)	道南いさりび鉄道線 (五稜郭駅⇔木古内駅)	

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名
七飯町	七飯役場通 バス停	北海道中央バス(株)・ 道南バス(株)・北都交通 (株)・函館バス(株)	高速はこだて号 (札幌駅前T⇔湯の川温泉東)
		函館バス(株)	七飯大野循環線 (函館 BC⇔七飯大野循環)
			大川富岡線 (函館 BC⇔七飯⇔新函館北斗駅)
			七飯富岡線 (函館 BC⇔七飯⇔新函館北斗駅)
			函館鹿部線① (函館 BC⇔七飯⇔新函館北斗駅)
			函館鹿部線② (函館 BC⇔七飯⇔鹿部出張所)
			富川・三原台・大川線 (函館大学前⇔ななえ新病院)
			三岱線 (函館 BC⇔七飯⇔森駅前)
			函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)
			函館長万部線 311 系統 (函館 BC⇔森駅前)
快速瀬棚号 (函館 BC⇔上三本杉)			
北海道旅客鉄道(株)【JR】	七飯駅／函館本線 (函館駅⇔旭川駅) (大沼駅⇔森駅)		
鹿部町	鹿部駅	函館バス(株)	鹿部駅線 (鹿部出張所⇔鹿部町役場⇔鹿部駅)
		北海道旅客鉄道(株)【JR】	函館本線 (函館駅⇔旭川駅) (大沼駅⇔森駅)
		(有)北海道・函館moo-taxi	町デマントバス (鹿部)ゾート地区・出来潤地区)
	鹿部町役場	函館バス(株)	函館鹿部線② (函館 BC⇔七飯⇔鹿部出張所)
			川汲鹿部線② (函館 BC⇔川汲⇔鹿部出張所)
			鹿部海岸線 (鹿部出張所⇔川汲⇔古部)
(有)北海道・函館moo-taxi	町デマントバス (大岩地区・鹿部地区)		
森町	森駅	函館バス(株)	函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)
			函館長万部線 311 系統 (函館 BC⇔森駅前)
			三岱線 (函館 BC⇔七飯⇔森駅前)
			砂原線 (森駅⇔砂原東 3 丁目)
		北海道旅客鉄道(株)【JR】	函館本線 (函館駅⇔旭川駅) (大沼駅⇔森駅)
八雲町	八雲駅	函館バス(株)	函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)
			快速瀬棚号 (函館 BC⇔上三本杉)
		(有)八雲ハイヤー	熊石・八雲間予約バス (熊石⇔八雲総合病院)
		北海道旅客鉄道(株)【JR】	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)
	熊石バス停	函館バス(株)	檜山海岸線② (江差 T⇔熊石)
		(有)東ハイヤー	予約バス「檜山海岸線」(太田⇔八雲町熊石)
(有)八雲ハイヤー	熊石・八雲間予約バス (熊石⇔八雲総合病院)		
長万部 町	長万部駅	函館バス(株)	瀬棚長万部線 (上三本杉⇔長万部 T)
			函館長万部線 (函館 BC⇔長万部 T)

市町名	結節点	運行事業者名	接続する路線(系統)名
		ニセコバス	寿都・長万部間 (寿都 T⇔長万部駅)
		北海道旅客鉄道株【JR】	函館本線 (函館駅⇔旭川駅)
			室蘭本線 (長万部駅⇔岩見沢駅)

3 各市町の公共交通施策の現状

(1) 市町による公共交通の現状

各市町は、町単独のバス路線への補助金の交付のほか、コミュニティバスや乗合タクシー、道路運送法第79条登録、スクールバス、無償バスなど、地域の輸送資源を総動員して、地域住民に必要な移動手段の提供を実施しているところ。

各市町における公共交通の現状

	フィーダー 系統	市町村 生活 バス 路線	市町村 単独 補助 路線	コミュニ ティ バス・ 乗合 タクシ	自家用自動車 有償運送		スクール バス	市町 運行 無償 バス
					交通 空白地 有償 運送	福祉 有償 運送		
函館市	○		○	○		○	○	○
北斗市	○			○		○		○
松前町	○			○		○	○	○
福島町	○			○		○	○	○
知内町	○				○	○	○	○
木古内町							○	○
七飯町			○			○	○	○
鹿部町	○		○		○	○		
森町			○			○	○	
八雲町	○			○	○		○	○
長万部町		○					○	○

(2) 各市町の地域公共交通計画の策定状況

地域にとって、望ましい地域旅客サービスの姿を明らかにするマスタープランとしての役割を果たす「地域公共交通計画」は、地域公共交通活性化再生法の改正（令和2年12月施行）により、地方公共団体による作成が努力義務化されたところであるが、渡島地方については、管内全市町が策定する予定となっている。

各市町における地域公共交通計画策定期間（予定含む）

	～R2		R3	R4	R5	R6～	時期 未定	策定 しない
	改正地域公共交通活性化再生法							
	施行前	施行後						
函館市	○				○			
北斗市		○						
松前町					○			
福島町				○				
知内町					○			
木古内町					○			
七飯町				○				
鹿部町	○							
森町			○					
八雲町	○							
長万部町				○				

4 災害と公共交通

令和2年に乙部町で発生した岩盤崩落に代表される土砂災害による路線バスの迂回運行や部分運休、台風や檜山地方独特の冬場の強風・波浪によるフェリー・航空機の欠航などの影響が発生している。

主な災害と公共交通への影響

被災年月	種類	発生箇所	災害概要	公共交通への影響
H30.4	土砂崩れ	道道5号 (木古内町)	道道5号沿いで上ノ国町膳棚ー木古内町大川間7.9kmで通行止め。	【路線バス】 部分運休。
R2.6	土砂崩れ	国道229号 (乙部町)	国道229号沿いの乙部町館浦で土砂崩れが発生し、同町鳥山ー館浦間の約1.8kmで通行止め。	【路線バス】 17.4km迂回路を運行。 復旧時期は未定。
R2.11	土砂崩れ	道道5号 (木古内町- 上ノ国町)	道道5号沿いで上ノ国町湯ノ岱ー木古内町大川間11.9kmで通行止め。	【路線バス】 部分運休。
R4.8	土砂流入	国道228号 (松前町- 福島町)	国道228号線松前町白神ー福島町松浦間6.0kmで通行止め	【路線バス】 部分運休。

これらに対応するため、交通事業者や（総合）振興局、町のホームページや防災無線などを通じて、公共交通の不通などの情報を、速やかに利用者へ伝達する体制を整備している。

災害発生時の主な体制

